

企画展示

太宰治の 疎開時代

DAZAI Osamu

太宰治直筆原稿「雀」昭和21年 三鷹市蔵

令和8年 令和9年
8/8日 ~ 1/17日

前期 令和8年 8/8日(土) ~ 10/12日(祝)
後期 令和8年 10/18日(日) ~ 令和9年 1/17日(日)
※前期・後期で展示替えあり

会場:三鷹市美術ギャラリー 太宰治展示室 三鷹の此の小さい家
東京都三鷹市下連雀3-35-1 CORAL5階 TEL.0422-79-0033
※展示内容の問合せ先 TEL.0422-26-9150(太宰治文学サロン)

観覧時間:10:00~18:00
休館日:**8月**10・17・24・31日 **9月**7・10・11・14・24・25・28日
10月5・13~17・19・26日 **11月**2・9・16・24・25・30日
12月7・14・15・21・28~31日 **1月**1~4・12・13日

観覧料:無料
協力:太宰治疎開の家<旧津島家新座敷>、太宰治「思ひ出」の蔵

太宰治展示室
三鷹の此の小さい家



企画展示 太宰治の疎開時代

太平洋戦争末期の昭和20年(1945)4月、三鷹下連雀の自宅で空襲に遭った太宰治は、妻・美知子の郷里である山梨県甲府に疎開します。しかし、7月には甲府も空襲を受けたため、太宰は確執が残る青森県金木の生家・津島家に再疎開することになります。8月15日の終戦を迎えても、すぐには三鷹に戻らず、翌年11月まで津島家の離れで過ごしました。

太宰は、この約1年7か月にわたる疎開中に「パンドラの匣」、「トカトントン」などの秀作を次々に生み出しただけでなく、2つの戯曲「冬の火花」、「春の枯葉」にも挑戦するなど、厳しい状況のなかでも創作意欲を失うことはありませんでした。令和6年(2024)に三鷹市が直筆原稿を購入した「雀」も、同時期に脱稿、発表されたものです。

今回の企画展示では、「雀」を中心とした太宰の疎開時代の作品に焦点を当て、帰京後「斜陽」によって一躍時代の寵児となるまでの過程を、前後期に分けて紹介します。



「パンドラの匣」昭和21年6月
河北新報社
三鷹市蔵(山内祥史文庫)

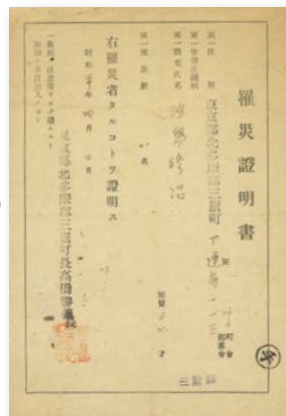
『冬の火花』昭和22年7月
中央公論社
三鷹市蔵(山内祥史文庫)



「人間」昭和21年9月 鎌倉文庫
(公財)三鷹市スポーツと文化財団蔵
(「春の枯葉」初出誌)



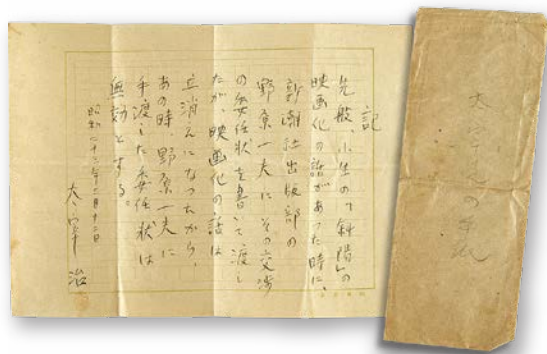
「群像」昭和22年1月 大日本雄弁会講談社
(公財)三鷹市スポーツと文化財団蔵
(「トカトントン」初出誌)



罹災証明書(三鷹) 昭和20年4月2日
三鷹市蔵(津島家寄託)



太宰治 鮎崎潤宛葉書 昭和20年10月30日
三鷹市蔵(鮎崎家寄託)



太宰治「斜陽映画化委任状無効の記」
昭和23年3月12日 三鷹市蔵(石井立文庫)

会期中、「太宰治疎開の家<旧津島家新座敷>」及び「太宰治「思ひ出」の蔵」との連携イベントを開催します。

・太宰治疎開の家<旧津島家新座敷>

青森県五所川原市金木町朝日山317-9 TEL.0173-52-3063
<https://hsmoji.wixsite.com/dazai>

疎開中、太宰が妻子と暮らし、23作品を執筆した津島家の離れ。

イベント 「雀」が書かれた部屋で、直筆原稿全38頁の複写資料(提供三鷹市)を閲覧できます。



・太宰治「思ひ出」の蔵

青森県五所川原市大町501-2 TEL.0173-33-6338 (まちなか五所川原)
<http://www.machinaka-go.co.jp/business.html>

「思ひ出」に登場する太宰の叔母・キエの一家が津島家から分家した際に建てられた蔵(再建)。太宰が疎開中に度々訪れたという。

イベント 太宰治展示室 令和6年度企画展示「太宰文学と美術のまじわり」の巡回展示を開催します。



※開館状況、入館料等は各施設にお問い合わせください。



太宰治展示室から徒歩約5分の太宰治文学サロンにもお立ち寄りください

・三鷹駅南口デッキを直進しCORAL2階入口からお入りください。
・CORAL内エレベーターで5階へお越しください。